

刊日五十月二十



定価 一紙五錢 一月一元五角 三月四元 半年八元 一年十五元
廣告料 五銭 一文字 一行 金五銭
日曜 休刊
行先 東京 日本橋区本町一丁目
電話 六二〇
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

陣中想出話

(五)

平町出身

歩兵第九聯隊 水野重光
第三中隊

橋本偵察隊捜査の記

小隊長は暫くにして吾々に問題を出した。此の地形状況に於て諸子ならば如何にするや。

甲上等兵「只死を期して奮闘するのみ」

乙一等兵「地形を利用して脱出し状況を直ちに報告する」

甲上等兵の考は勇敢なるも任務上、乙一等兵策を可とす、但し之を採用せりと云へども夜間に於ては脱出を思ふ通りに行かざらんも此の戦斗に於ては果して可能なるや、暗に橋本上等兵一行の八分通り戦死を思はざるものはなかつた、右問答終るや散開して捜索する事になつた、時に雨は稍晴れ九月の初めの月光は林安より地面を照らして呉れた。歩度を緩めて一歩一歩捜索すること約三十分得る處全くなし、小隊長は最早や詮方なし、中隊長に意見を申具し明日を期して主力をもつて山道河の敵を攻撃し一部を以て捜索を續行するのみと、一同は歸路を早やめた、其の頃橋梁哨方面にて汽笛が二三回鳴る、或は豪膽にして沈勇なる彼等故に

歸つて居るかも知れぬと小隊長と米田曹長の話を聞いては側に居る我々も心強く感じたのであつた、午後八時頃橋梁哨附近に來た、橋梁哨は小高い處にあつて(リンパ)の火が見える、我々の乗る急援列車は

ノット

醬油のかびを防ぐには、カ

ランをよくねつて袋に入れて、醬油樽の中に入れておくと、そのカランから、カラン油が出來ますから、これが作用して空気を遮断する爲め、黴菌の發生を防ぎます、唐辛子を入れておくのも同じ理由ですが、ねりカランの方が一そう効めがあります

音を止めてゐる、一同は近付いても誰れ一人として橋本上等兵は歸つてゐるかと呼ぶる者もない、其れも其の筈だ、戦死した者と思つて居た、たとへ聞いても歸らないと云ふ返答を聞くのが厭だつたからだ、此の時小隊長は「オーイ橋本上等兵は歸つたか?」と大聲すると「只今歸りました異状ありません」思はず起る萬歳の聲、彼所にてはランブを振る、其の心情や小隊以下感極りて言葉なし、やがて橋本上等兵は小隊長の前

に來たり、直立不動の姿勢にて感涙にむせび暫し言葉も出さず、中隊長殿は斥候兵及草野小隊長以下の無事を喜んで語る。

二明日の献立

【朝】すまし汁 さつま芋ねぎ

【晝】しめ 八ツ頭芋 生揚げとうふ

【晚】煮肴 さわら煮 付あられ生煮

「五名の死体を收容する積りで此處まで來た」と彼等は九死に一生を得て敵の包圍の中を萬難を排して生還す、此れ隊長初め一同の心が天に通じたる所以ならん。



詩

遠藤 綾

昏に近き野の坂道をしへへ下り行くくまもや冷め

つきよみの光こぼしき夜のそらに名しらめ鳥はなかなす渡るも

従騷の音はよそに馬迄は生命一夜をなきあかす哉

梧の葉にあやし風ふくしのび夜は地虫のこゑも衰らふるらし

漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました

絶好無二の御買時
在庫品見越買附品豊富
◇平素ノ御引立ヲ衷心ヨリ感謝シ
◇大奉仕精神ヲ徹底セシムベク
◇在庫品全部ノ從前値段販賣ノ一大奉仕
お正月の御用意お屠蘇具が
種々入荷致しました
専門漆器平町に只一軒の……

ドコロモ、ヨイシナラ
ドコロモ、ヤスグウル、メリモノミセ

各國産漆器専門卸小賣
共榮漆器店
(平町3丁目36元郵便局裏通)

店員募集 十二三才...小役員優遇す
店員募集 三十才迄...外交員優遇す

産名城磐

魚問屋

店代理平命生本日大最優最
榮盛二賀目丁四平
番三一電

城磐 **共濟病院** 案内

院長 醫學博士 石山謙 郎
自宅(電話二二四番)

内兒科	醫學博士 石山謙 郎
外科	醫學博士 石山謙 郎
皮膚科	醫學博士 石山謙 郎
喉科	醫學博士 石山謙 郎
産婦人科	醫學博士 石山謙 郎
X光線科	醫學博士 石山謙 郎
衛生試驗所	醫學博士 石山謙 郎

診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 **磐城共濟會**
電話六四一

貸切の命は!

御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
マツサキ

眞先ニ……………(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

開業廣告

醫學博士 渡部 義夫

女 醫 渡部 さい子

平町大通り(電話二七七番)

入院應需 **渡部 外科**

花柳科 専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり

平町五丁目橋際
電話三〇九番

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

インフレ景氣爆發

職業戦線に大異状

求職と求人其の位置を顛倒

求人益々盛ん

果然爆發したインフレ景氣で常磐炭界一圓には此處數年來見られなかつた活氣が横溢し既記の如く郡内各炭礦が益々事業擴張を計畫して坑内労働者の求人を平職業紹介所に申込んで来るもの續出今日までに百數十人の求人口があり

紹介所でもホク／＼もので求職者を炭礦に振り向けやうと汗だくの活動中だが新川改修工事其の他の失業匡救事業に救はれてか昨今労働者の求職者が激減僅に店員、外交員、雜務、女中等の求職者がある

程度で此れとても去る十日以來今日までの求職希望者は十日一人、十一日二人、十二日三人、十三日二人、十四日二人、十五日三人、十六日三人、合計十六人の少数で然も此の全部が平市内の商店や其の他の**仕事を**希望してゐながら一人残らず希望通りの職業を斡旋されたと言ふ好成绩振り、係員が總出動で求人口の閉塞に血眼だつた二三月前と對比して餘りにも變り果した職業戦線の異振状に紹介所でも驚ろいてゐる

他村に負けるなと

出品を督勵

聯合俵米品評會

開催地の責任

督勵中である

石城郡農會主催で既記の如く明年一月七、八、九の三日間平農業倉庫に開かれる平町外七ヶ村聯合の俵米品評會に就いて平町農會では從來出品点数が他村にのみ奪はれ甚だ少数である處から今回は開催地として恥しからぬ点数を揃へんと感

匡救事業

實地監査

縣から來郡

平土木監督所管内各町村の匡救事業監査の爲め縣廳より山口、柳澤、河沼、田中

の四氏來郡十三日より平土木監督所に工事全般の監査中であるが近く小林所長の案内で各町村に實地踏査を行ふと

青訓の査閲

郡内各町村自制

石城郡下青年訓練所教練査閲は來年二月二日より開始されるが査閲官は福島縣聯隊區陸軍歩兵少佐中村貫一氏日割は左の如くである

(一日)田人(三日)川部 勿來(四日)山田 植田 錦(五日)泉 渡邊(六日) 小名濱 玉川(七日)鹿島 江名(八日)四倉 高久 豊岡(九日)夏井 神谷 草野 大浦(十日)赤井 小川(十一日)大野 平窪 (十二日)平 飯野(十三日)好間 内郷(十四日)箕輪(十五日)湯本 磐崎 (十六日)入遠野 上遠野

夏井青年協議

石城郡夏井青年團では來る廿一日午後一時から同村小學校に於いて役員會を開き來年度事業の協議を行ふと

平商操行査定

平商業學校にては來る十九日午後一時より五年生三十八名に對する操行會議を行ふと

第二學力考査

平第二小學校にては本日より第二學期學力考査を開始したが本日は國語、明日は算術である

最終町會

廿二日に開く平町では本年最終の町會を來る廿二日に町役場會議室に開くと

水門

増設陳情

二ヶ處で足りぬ石城郡磐崎村地内藤原川の支流泉村本谷川の沿岸には出水豫防の水門が二ヶ所設置されてあるが過般の暴風雨に依る出水に際しては藤原川よりの逆流を二ヶ所のみでは喰止められず同村農家は非常な被害を蒙つたので昨十五日上遠野泉村長外數名の代表者は平土木監督

所に目下着工中の藤原川改修工事の一部として水門一情した

此の寒さに花盛り

磐城 高等 女學 校では今春以來生徒達の優しい丹精に依つて育てられた櫻草、シネラソヤ、水仙等が此の寒さにもめげず今を盛りと温室を彩つて居る

就職兒童の

直感的科學檢査

平職業紹介所では明春卒業する平町外十二ヶ村聯絡校の就職希望兒童の性能檢査を去る十日より平町役場會議室にて行ひ昨日を以つて一先づ終了したが受檢生徒男百名、女四十名計百四十名にて目下係員が統計書整理に忙殺されて居るが本年は機械に依る精神、運動、感覺の三性能檢査以外に直感的人物考査等を加へて各兒童の希望職業を善導する事にとめた

有給社員募集

愛國生命保險株式會社 履歷書持參本人來談あれ！ 平代理店 松崎長三郎 平町新川町

江戸前料理 倉巻

奇なべ はまなべ 鳥なべ ありなべ かきなべ 出前！迅速！ 錦 水 電話四五四番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平町南町 電話一七〇

平町新川端(釜屋新宅向) 内科 一般 醫學博士 難波 陸 電話五〇二番

看護婦急派

の求めに應じます

平看護婦會

平町南町 電話三〇七番

無罪から懲役に

正當防衛の境を越えたと

益踊殺人事件判決言渡

石城郡植田町江木田農高水正明(三)同松田松治(三)の兩名が昨年九月八日隣村渡邊村諏訪神社へ益踊に行つた歸途些細の行がかりから同様の青年團員三十餘名に袋叩きにされ激昂の餘り懐中の短刀を揮つて斬り付け一名を即死一名を瀕死の重傷に陥らした事件は平支部中島判事から正當防衛として無罪の判決を言ひ渡されたが市川檢察の控訴に依つて宮城控訴院伊佐早裁判長係りで爾后審理を進められてゐた處昨十五日公判の結果正當防衛の範圍を超えたとして前判決を破棄懲役二ヶ年但し四ヶ年間の執行猶豫の判決あつた

保険金詐取の

放火事件結審

營業難に陥り

大それた企て

平町字久保町二十七番地精米業遠藤忠治(三)が保険金詐取の目的で放火した事件は過般家

平支部に於て荒井櫻

審判事係り淺野書記立會の下に審理中の處本日終決放火罪と決定、近く中島裁判長係り公判開廷される事になつたが被告遠藤は長年精米業及び

米穀商を營んで居た

處近頃の不景氣に營業不如意となり資金難に陥つたので何とかして纏つた金策をしやうと思案の末大それた保険金詐取を企て本年五月

門所有の物置と自分の精米所に

石油をかけた放火したのが近所の人々に發見され目的が達しなかつたものであつたと

氣味悪い

數字

平第二校の排虫成績

平第二小學校にては去る八九の兩日全校児童に對し蠅虫驅除の爲め海人草を服用せしめたが其の結果に依ると排虫人員は四百六十三名にて虫の数は千二百四十六匹一人當り一匹平均で一多の児童は二十三匹も排出した由

逃げる途中で

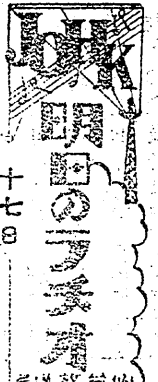
死んだの電報

駆落男女捕る

「心配するな」が仇

今曉午前零時四十五分平着上り準急列車が平驛に停車した際平署の

者風態三十才前後の男と二十四五才位酌婦態の女を引致し本署にて致何事かを嚴重取調中だが此の男女は當時岩手縣一の關町農小野寺



明日の部
西の風晴れ
今夜も明日も北

今晚の部

- 後六〇〇 子供の時間
- 童話「牡丹餅」高島巖
- 後七三〇 「冬山の夕」
- 冬山座談會
- 後八、四〇 獨唱、四家文
- 金八(三)茨城縣土浦町生れ
- 當時一の關町料亭壽方抱酌婦沼田ノブ(三)の兩名で今春頃から馴染を重ね
- 末は夫婦と約束したが女には二百五十圓の前借があり男は女に逢ふ爲め遺線の無理算段で二百圓以上の不義理な借金が出來た此の儘では一緒に居られる見込みないからと兩人手を取り合つて女の故郷へ駆落ちと洒落たまではよかつたが「ノブ」死んだ心配する」など主人方へ列車内から電報を打つた事から足が付き平署に取押へられたものであると

悪周旋業者が

誘拐少年置き去り

途方に暮れて保護願ひ

石城郡小名濱町魚商小野留太郎長男梅太郎(三)は去る十三日友人二名と共に悪周旋業者に誘拐され靜岡縣中泉驛へ下車した際同人のみ置き去りされ十四日濱松署に保護方を願ひ出た旨昨夜平署に通知があつた

尊徳翁の銅像

本多氏の製作

見事に原形完成

平町八幡小路彫刻家本多朝忠氏は今回相馬郡中村町有志に依頼され同町公園に建設する二宮尊徳翁銅像の原型製作中去る十四日漸く完

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「雞卵の蕪菁かけ」中會根うめ子
- 前一〇、三〇 家庭講座「子供と砂糖」竹内茂代
- 後〇、〇五 謡曲養生流
- 後二〇、〇〇 武田善夫
- 「龍太鼓」武田善夫
- 後二〇、〇〇 婦人講座
- 「日本婦人とその社會的活動」文學博士中村孝也
- 後五、〇〇 受驗講座「漢文」塚本哲三
- 後六、〇〇 子供の時間

筆劍合同

の忘年會

平區所、檢事局、平警察署、在平日新聞記者から成る筆劍合同の忘年會は十五日午後五時から住吉屋本店に於いて開會したが此の催しを開き付け各官公衛警城、入山、古河三大炭礦參會多く六十餘名に達し近來の盛會であつた

平裁判たより

石城郡江名町字中ノ作六十二番地漁夫吉田定次郎(三)は去月二十三日午後四時頃同町吉田爲吉(三)所有の石油動力機船星丸に船長として乗込み禁止區域なる茨城縣磯濱町大洗海上に於て盛興網漁業をなし機船底曳網漁業取締規則違反として各罰金四十圓宛に日本平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

平農協の所報告

回人を求める方
△配達集金 十九才迄 尋卒 給料歩合(平町某新

- 童謡と唱歌 アンカ幼稚園々兒 伴奏中川長子
- 後七、三〇 講演「藝術と國民性」三高教授林久男
- 後八、〇〇 ヴァイオリン
- ピアノ二重奏 ヴァイオリンアレキサンダー
- ピアノモダレスキーレオシロタ
- 後八、三〇 端唄と流行唄
- 霞町勝太郎 管絃伴奏
- 後八、五〇 ラヂオレヂエウ「砂漠のメロデー」ゴウラ
- 後九、三二 滿洲より

開店)

- △女中 二十三以下 尋卒 月五圓以下(平町某飲食店)
- △出前持 二十以下 尋卒 月四五圓(平町某カフェ)
- △陰師手傳 十八迄 尋卒 日給五十錢位(平町某工場)
- 回職を求める方
- △菓子工見習 十八才 高卒 給料面談(好間村某)
- △電工 二十三才 高卒 給料面談(好間村某)
- △鋸サキ 三十五才 高卒 給料面談(福島市某)
- △鑄物工見習 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △自動車助手 二十五才 高卒 給料面談(内郷村某)

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】
 悟道軒圓玉演
 近藤藤紫雲畫

第二百廿六席 平手造酒

造酒深傷を負ふ

飯岡の助五郎は政吉の女房おさだが脇差を取つて出ようとするのを引止め、政の敵は俺が引受けたと云ひ猶おさだに

助「貴様と政吉の間には子供もある、お前の身に凶事があれば誰を便りに子供は人となる無法な事をするな俺に任せて置け、エーこの刃物は此方へ出せ」

脇差を取上げた、夫ゆゑ喧嘩を見ながら平手に近寄る事も出来ない、中に笹川方は引上る、後には平手が只一人近づくと斬り拂ひ、悠々引上げてゆく、時におさだは助五郎の子分の捨てた竹槍を取つて裏口から飛び出して塙新田の六地藏の後に忍び造酒の来るを待つてゐた、平手は斯くとは知らず追跡する者共を追拂ひこの堂の前まで来てホトト息つき後を見たがモツト追つて来る者はない、此の時おさだは造酒の背後より忍び寄りサツと突出した竹槍、造酒は振向く途端にズバリ脇腹を刺された、アツと云つた平手が左に持つてゐた脇差を投げ竹槍をのからんでグツと引いたから



トと前へ出たおさだ、エイトと一撃右に持った忠綱の一刀で首を打落した、然し脇腹を刺されたため倒れたが暫くして起き上り首を切り落したおさだを見て

造「これは女だ、強い奴が」
 勢「平手先生、モシ先生」
 造「ウム浅傷を負ふたが、別に苦痛もない大丈夫だ、時に勢力身内に死んだ者があつたか」
 勢「四人ばかり佛になりましてございます、あの場合とてその佛は向ふに置いて來ました」
 造「それは氣の毒な事をしたな、然し俺が手にかけてたものは七八人只助五郎を討ち漏らしたは残念だ、それにしても何うして今夜我々の押し寄せることを知り居つたか」

あるもの俺の後に忍び寄つて刺し居つたな、ア一いけねえ次第に氣力も衰へて來た、女の手にかゝつて死ぬは残念、然しこれも因縁であらう、一體なんでこの女が俺をこれ程までに恨み居るが察するに去年九月飯岡から切り込んで來た時に俺

呼びながら來ると
 造「ウム飯岡の奴等は追拂つた、モツ誰も追つて來る者はない、さア一緒に參らう」
 勢「竹槍を突いて榮助と並んで行く、勢力はこれを見て勢「先生お怪我はございませんか」

造「イヤなんともないぞ只疲れたよウム」
 勢「これは大變だ、先生大層血が出ますな」
 云ふと造酒はどうとそれへ倒れて
 造「勢力モツ俺はいかん助からんぞ」
 富五郎は吃驚して
 勢「何うなさいました先生確かりして下さい」
 造「イヤ只今六地藏の前まで引揚げて休息いたし居る

と後から忍び寄つた者の突き出したその槍のために深傷を負ふた、當の敵は斬つて捨てたがそれは女子であつた、千葉周作の高弟にて麒麟と云はれた平手造酒も女子の爲に死するとは返すも無念の至り、併し今は如何とも致し方がない、これで恩師に背きし天罰であらう

平手二丁目
三井タシク
 電話六八五番

梅毒 **淋病**
 皮膚病 婦人病
松村 腸病 胃性
 院醫科 腸病
 〇七一話電 町南平

外科 **光線科**
 性病科
安齊外科醫院
 平町田町
 電話四七五番

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥
靈効散 (無効返)
 松前 家傳
 ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありましたが今度のものは真正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出來ました。
 定價 試用分(八日分) 輕症用(廿日分) 重症用(四十五日)
 販賣部 地方代理店 **阿康藥舖**
 靈効散 電話四四番

平新川町十九
木村病院
 電話一六四番
 産婦人科 院長 木村寅次郎
 婦人科 醫學士 内木宗八
 内臓外科 整形外科 器泌尿科
高級貸切
不二タクシー
 電話 32